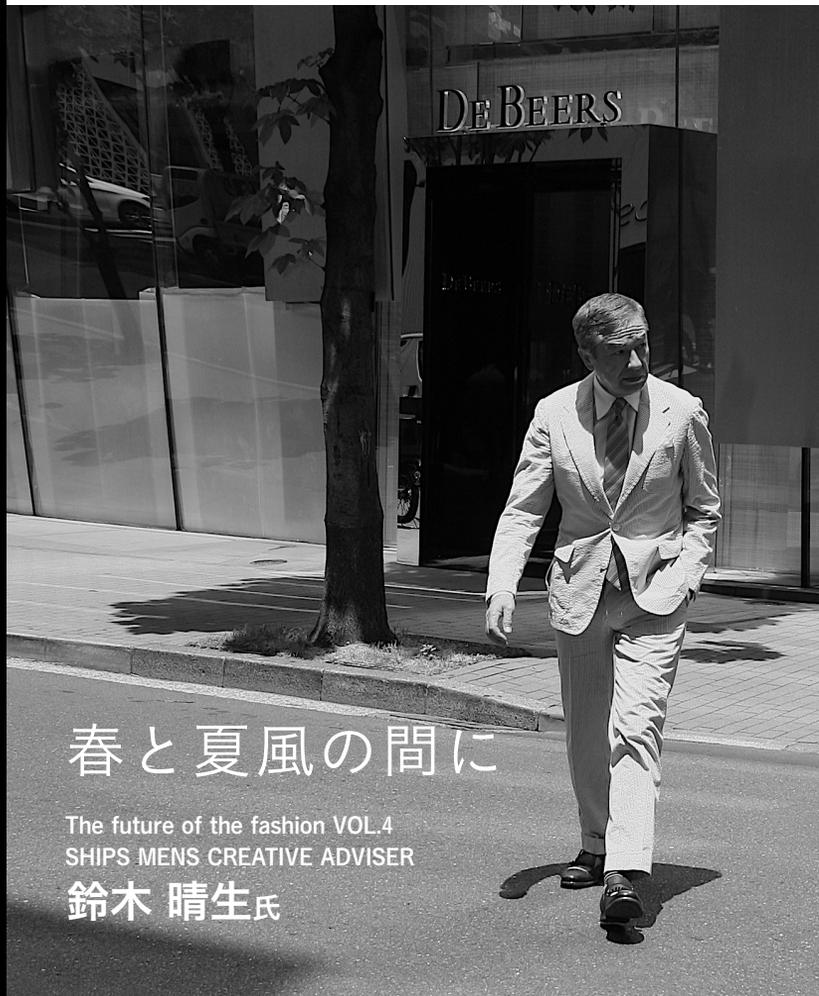


Shinsaibashi Reform

Magazine

vol.4

The future
of
the
fashion



春と夏風の中に

The future of the fashion VOL.4
SHIPS MENS CREATIVE ADVISER

鈴木 晴生氏

これからファッションは
どう深化してゆくのか？

様々な角度からその未来を探る

The future of the fashion



今回はシップスのメンズクリエイティブアドバイザーを務める鈴木晴生氏にご享受頂きました。

「VAN」、「テイジンメンズショップ」、「エーボンハウス」、「メッサーフリッツ」、「グレンオーバー」と時代を駆け巡り、96年から「SHIPS」のメンズ企画部長に就任。2006年には「ワインレーベル フォー シップス」をスタートさせる。執行役員を経て、現在は同社の顧問を務め、多くの企画で指揮を執る。

多くの服に袖を通し、時代を見つめてきた同氏が考える現代のスタイルに着目します。

Q まずは全体のイメージを伺います。

鈴木__今季は全体を通してコロニアルなテイストが重要なテーマになっています。とはいえ従来のコロニアルのイメージに捉われず、軽妙でどこかに新しさが感じられるスタイルが望まれます。

Q まずはジャケットスタイルですね。

鈴木__男にとってネイビーのジャケットは不滅の定番です。夜、食事や遊びに出かける時にちょっと羽織るものとしても重宝します。紹介する一着はアンコン仕立てのダブルの4つボタン仕様で、着心地然りですが、見た目にもリラックス感があります。いかようにも着回しが効くアイテムですが、ここではコロニアルなシチュエーションに合わせた着こなしとしてインナーにカーキ色のバンドカラーシャツを合わせます。パンツは同系色のグリーンを合わせて、トーン・オン・トーンでまとめるのが最も今日的な装いと言えましょう。ポイントとしてネック周りに同系色のスカーフを挿すとVゾーンにメリハリが出ます。



最後にここでの足元は白を推します。白の靴は着こなしに軽やかさを与えてくれますからまさに軽妙な印象を醸し出します。最近では白のスニーカーがトレンドの一躍を担い、人気を博していますが、大人の場合は英国調のグッドイヤーを前提にするのがいいでしょう。



Q 納得です!!

鈴木__次はいわゆるスクール調のカーディガンをベースにした着こなしです。アイビーでお洒落に目覚め、青春を謳歌した人たちにとってこのカーディガンは馴染み深いアイテムだと思いますが、今、大人が着るという視点を踏まえて着ることが大前提だと思います。私の場合、昔着ていたものに触れるとその時代の空気を感じます。時として元気を貰うことができるのです。そういう意味も踏まえて、古の定番と長く付き合っていくのがいいでしょう。



The future of the fashion

ここではボトムにバティック、インナーに白のリネンシャツを合わせました。いずれもコロニアルの代表格としてお馴染みですが、仕上げにグレーのニットタイでシックにまとめます。ドレ・カジ的な着こなしですが、タイの色を間違えると子供っぽくなってしまいますから、フォーマル感のあるグレーが好相性です。ここでハッキリと申し上げたいのはクラシックを今時に着るといふ考え方を持っていただきたいということ、これが肝心です。

Q 確かに!! 思い出が詰まっていて 捨てられないものがありますからね。

鈴木_ 次第に暑くなるとシャツとパンツを中心にした着こなしになります。ここではミニマムなアイテムをどう魅せるのか?を考えてみました。



アイテムはリネン素材のB.D.シャツに、ブルーのガーメントダイのパンツを合わせました。写真では見えていませんが、足元は、ヌバックを使った白のチャッカブーツを合わせています。まずはシャツですが、暑いから半袖シャツを着るのではなく、大人は常にロングスリーブを着用し、袖を捲って着こなすのが基本です。袖のロールアップは細かく折らず、5センチくらいの幅で肘の上にくるか来ないか辺りの位置に留めておくのが最も格好がいいと思います。イメージしたのは1960年代辺りのスタイルです。ファッションアイコンとしても名高いS・マックイーンもそう着こなしていた記憶があります。何れにしても夏場は素材感もありますが、こうした細やかな演出が、爽やかで涼しげな印象を作ります。加えて爽やかさ然りですが、ここではポイントとしてイエローのリボンベルトをあしらいました。現代はベルトレスの時代ですが、ポイント色としてこれを際立てるのもこの時期ならではだと思えます。余談ですが、ベルトはエーボンハウスに勤務していた時代、ホワイトハウスコックスに別注したものです。



Q 最後はスーツですね。

鈴木 夏のスーツはシアサッカーがいいですね。コロニアルなテーマにも合いますが、都会で颯爽と着るのもいいものです。ジャケットはスリーパッチポケット、パンツはプレーンフロントですから、アメリカの香りがするモダンブリティッシュと表現するのが適切かと思います。このスーツはかなり前に買ったものですが、心齋橋リフォームさんで随分直して頂きましたから現代的なフォルムに仕上がっていると思います。インナーにはワイドではなく、1970年代を彷彿とさせる襟の開きが狭いレギュラーカラーシャツを合わせ、ピンクとグリーンシルクシャンタンのストライプタイでまとめました。オーセンティックなタイも好相性ですが、Vゾーンに新しいものを取り入れたいと思い、敢えて清涼感のあるイタリアンカラーを選びました。靴はドレッシーな内羽式では印象が変わらないので、チャーチの1920年代の木型から再生したモダンコロニアルを彷彿させるシャンガイのキルティモンクを合わせました。

The future of the fashion

どのスタイルもいいですが、いずれもこれぞ大人のスタイリングですね。

紹介したものはすべて鈴木氏の私物ですので、同じものは手に入りにくいと思います。読者諸兄はこのテイストだけをしっかりと五感に刻んでほしいと思います。

次回は鈴木晴生氏が提案するコロニアルスタイル第2段をお送りします。どうぞお楽しみに。

取材協力

SHIPS シップス 銀座店

TEL : 03-3564-5547

URL : www.shipsltd.co.jp